

入場無料！事前申し込み不要！

終末期の介護に関する講演会

「あなたや家族の最期の過ごし方」～考えたことがありますか～

在宅医療を行っている医師が、自身の経験をもとに、介護する側・介護される側の心構えや心のケアについて、分かりやすくお話しします。

住み慣れたご自宅での療養・介護をお考えの方、在宅療養中の方、介護をされている方、その他興味のある方のご来場をお待ちしています。

期日▼2月16日(土)

時間▼午後1時30分～3時

場所▼東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」

定員▼100人

問い合わせ▼地域包括支援センター(☎287-2516)

講師紹介 清水 亨 さん

医師、日本麻酔科学会専門医・指導医、一般社団法人エンドオブライフケア協会公認援助士。現在、せせらぎ在宅クリニック(つくば市)院長。



常に患者さんご家族の皆さんにとって一番の医療と一緒に考え、患者さんが本当に望む医療、一人一人にあった訪問医療(プライマリーケア)、尊厳を大切にされた看取りケアを実施中。

ふるさと歴訪
～歴史を再発見～

照沼小学校の記憶(記憶遺産)

～探していた土器に巡り合えて～

昭和37年、照沼小学校が開校した4月のある朝、学校へ行くと真新しい玄関に泥だらけの土器片が積まれていました。聞いてみると、4年担任の坂田章夫先生と大内忠夫先生が、校舎と講堂の間から貝塚を掘り出したとのこと。当時4年生の私たちは、ちょうど歴史を学び始めたばかりでしたので、この貝塚の発見により、図らずも、教科書上の「大昔の生活」を、目の前で学習できることになったのです。両先生は「勉強とは机上の学問だけではない」とおっしゃり、その後さらに村内の遺跡へも何度も連れて行ってくださったので、学年中が考古少年・考古少女のようでした。

この時に学校から見つかったのは、今から約5千年前の縄文時代中期の土器でした。私は復元・展示されたそれらを見て、「どうやって文様を付けたのだろうか」などと、多くの疑問を持ち、調べたことをはつきり覚えていきます。照沼小学校で受けたこのような教育は、私が考古学の道を志すきっかけとなりました。私はこの土器がいつの



東海村文化財保護専門員

宮田 裕紀枝

間にか学校から姿を消したことを知り、ずっと行方を探していたのですが、数年前、県の歴史館に寄託されていることが分かりました。そして今年の1月9日、約30年ぶりに村へと戻ってくるようになったのです。自分の人生の原点である土器との再会を、私はまるで初恋の人に会うような気分で心待ちにしていました。

ちなみに現在の校舎を建設する際に発掘調査された堀米A遺跡(貝塚)は、県内でも有数の縄文時代の集落跡であったことが明らかになりました。貴重な遺跡発見のきっかけが、かつて土器を掘り出した先生方の功績であることは、言うまでもありません。

私は、人々の記憶も、民俗分野の貴重な文化遺産だと考えています。「(仮称)歴史と未来の交流館」では、村の歴史を語る上では欠かせない「記憶遺産」も展示しようと計画中です。「モノ」だけでなく、それに伴う記憶なども一緒にお見せできるようにしたいと考えています。皆さんの心の中にある文化財を展示し、村民一人一人の手で創り上げる博物館は、他のどこにもない素晴らしいものとなるはずです。